

万葉のふるさと

市内では万葉をテーマとしたイベントが開催されているよ。
参加してみよう。



高岡万葉まつり (毎年10月)

万葉集全20巻4,516首をリレー方式で、3日間にわたって歌い継ぐ「万葉集全20巻朗唱の会」をはじめ、芸能発表、万葉茶会などいろいろな万葉関連行事が行われます。



万葉集全20巻朗唱の会

越中万葉かるた大会 (毎年1月)

越中万葉かるたは、高岡古城ライオンズクラブと高岡市教育委員会が企画し、「越中万葉」から100首を選んで作ったものです。かるた大会は、昭和55年(1980)から続けられています。



4人1組で対戦して
4回戦の合計得点で
勝つよ。



スタンプカード

<p>万葉の風景 1</p> <p>高岡市万葉歴史館</p>	<p>万葉の風景 2</p> <p>高岡古城公園 (三の丸茶屋)</p>	<p>万葉の風景 3</p> <p>高岡市伏木 気象資料館</p>	<p>万葉の風景 4</p> <p>高岡市中田 コミュニティセンター</p>	<p>万葉の風景 5</p> <p>道の駅 雨晴</p>
--------------------------------	--	---------------------------------------	--	------------------------------

いいところ
再発見!
さいはっけん

高岡再発見プログラム
**たかおか
解体新書**
万葉編

きくじ

万葉の風景1	二上山	3
万葉の風景2	堅香子(かたかご)	5
万葉の風景3	射水川(小矢部川)	7
万葉の風景4	雄神川(庄川)・あしつき	9
万葉の風景5	渋溪(雨晴海岸)	11
市内マップ		13

たかおか解体新書って？

古代、伏木に越中国府が置かれ、江戸時代のはじめには高岡城と城下町がつくられるなど、高岡市は富山県の歴史の中で大事な舞台となりました。市内には瑞龍寺や勝興寺などの日本を代表する建物や歴史的町並みが残されています。さらに、雨晴海岸など1,300年前に詠まれた景色を今も見ることができます。

たくさんの顔をもつ「たかおか」のいろいろな面を知ることで「たかおか」のよさを再発見することが目的です。

知っていそうで知らなかった「たかおか」がまわりの人にちょっと話したくなる「たかおか」になるといいですね。



やかもち 家持くん

としなが 利長くん

たかおか歴史年表

300頃 弥生時代 | 593 古墳時代 | 710 飛鳥時代 | 794 奈良時代 | 1185 1192 平安時代 | 鎌倉時代 | 1334 室町時代 | 1573 安土桃山時代 | 1603 江戸時代 | 1868 明治 | 1912 大正 | 1926 昭和 | 1989 平成 | 2019 令和

この頃 桜谷古墳がつくられる

この頃 伏木に寺院が建立される
越中国分寺が建立される
大伴家持が越中国守となる

この頃 利加羅峠の合戦

この頃 斯波氏が二上山南麓に守護所を設ける
桃井氏が守山城を築く
南北朝の対立で越中が戦場に

この頃 勝興寺が伏木古国府へ移る

この頃 前田利長が高岡城を築く

この頃 瑞龍寺が大伽藍となる

この頃 松尾芭蕉が高岡を訪れる

この頃 加賀藩主前田治脩となる

この頃 元勝興寺住職が

この頃 勝興寺本堂が再建される

この頃 高岡で富山県最初の鉄道開業
市制制度が開始。「高岡市」が誕生

この頃 伏木築港
高岡大仏(銅造)開眼



たかみわしょうぢ 高峯譲吉博士

つかいかた

次のページからのエピソードや万葉歴史館での情報を参考に万葉ゆかりの「たかおか」のことをもっと知ろう。

- 1 見てみよう 万葉歴史館の展示をよく見てみよう
- 2 調べてみよう 歌が詠まれた背景を調べてみよう
- 3 ふれてみよう 見て、調べて知った情報から当時のようすをイメージしてみよう

やくそく

- 熱中症やけがに気をつけよう
- 車に気をつけよう
- 施設の人やまちの人にすすんであいさつをしよう

もっと知りたい人は

- 『越中万葉を楽しむ』
- 『越中万葉をあぐる』
- 『越中万葉百科』
- 『たかおか一歴史との出会い』
- 『高岡市史』
- 高岡市万葉歴史館
- 高岡市埋蔵文化財センター

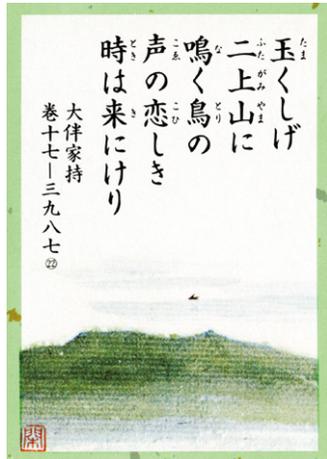
今回の対象となる期間

まん よう ふう けい
万葉の風景
1

ふた がみ やま
二上山

まん よう れき し かん まん よう しゅう せ かい かん
万葉歴史館で万葉集の世界を感じてみよう

ふた みね やま たか ところ も ふた がみ やま たか おか し ひ み し
二つの峰(山の高い所)を持つ二上山は、高岡市と氷見市にまたがって
ひょうこう たか と やま けん せい ふ ひろ ち い き
います。標高274mと高くはありませんが、富山県西部の広い地域から
のぞ み 見 る こ と が で き ま す。古くから神の山として信仰されました。
えつちゅう こく ふ やく しよ ふた がみ やま おお とも の やか もち やま
越中の国府(役所)はこの二上山のふもとにあり、大伴家持はこの山を
だい ざい おお うた よ
題材に多くの歌を詠みました。



富田実布撮影

げん だい こ やく
現代語訳

(たまくしげ)二上山に鳴く鳥の声が恋しくて
ならない時(時季)が、とうとうやってきたんだなあ

うた かい せつ げん
歌の解説

- 「玉くしげ」は「二上山」の枕詞(和歌などで特定の言葉に付ける決まり言葉)。
- 「鳴く鳥」は夏の訪れを告げる鳥、ホトギスのこと。家持が大好きな鳥で、その声を待ちわびる気持ちが詠まれています。

まん よう しゅう おお とも の やか もち
万葉集と大伴家持

- 万葉集は、今から約1,200年以上前の奈良時代の終わりにできたとされる日本で最も古い歌の本です。

- 万葉集をまとめたといわれる大伴家持は、越中国の国守(現在の県知事のような役目)として国府があった伏木に5年間滞在しました。家持の人生において最も充実した時期でした。



おお とも の やか もち そう
大伴家持像

- 万葉集の4,516首のうち、越中で詠まれ、または越中に
かか うた うた えつちゅう まん よう
関わって歌われた337の歌は、「越中万葉」と呼ばれ、
な ら じ だ い ふ う け い せい かつ いま つた
奈良時代の風景や生活を今のわたしたちに伝えています。

スタンプポイント

たか おか し まん よう れき し かん
高岡市万葉歴史館

まん よう しゅう ちゅう しん に ほん ぼし
万葉集を中心テーマにした日本で初
めでの研究施設。クイズなどで子
もから大人まで万葉集を楽しく学べる
コーナーや万葉集ゆかりの植物で彩
られる四季の庭があります。

スタンプが押せる時間 / 9:00~18:00(4月~10月)
9:00~17:00(11月~3月)
定休日 / 火曜(祝日の場合は翌平日)
年末年始(12月29日~1月3日)



やか もち おほ え が さ
家持くん寛書

えつ ちゅう こく
越中国

てん びやう ねん てん びやう ほう じ
天平13年(741)から天平宝字
元年(757)まで越中国は現在の
富山県と石川県能登地方の範囲
だったんだ。

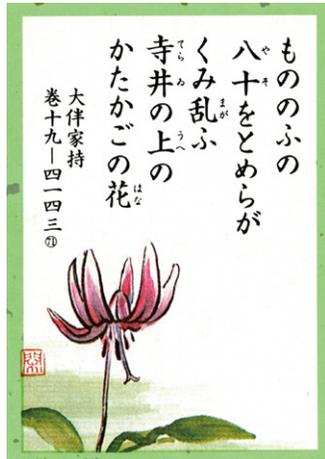


かた か ご
堅香子(かたかご)

えっ ちゅう まん よう うた い み はい けい しら
越中万葉かるたの歌の意味や背景を調べてみよう

かたかごは、薄い紅紫色をした小さな花を咲かせるユリ科の多年草です。
木々の葉が繁る前の春先に芽を出し、陽の光を独り占めできる短い
期間に1年分の養分を蓄え、次の春まで休眠します。
詠まれたのは1首だけですが、万葉集を代表する花のひとつです。

かたかごは高岡市の
花になっているよ。



げん だい こ やく
現代語訳

たくさんのお乙女たちが入り乱れて
水を汲んでいる寺井のほとりに
群がり咲いているかたかごの花よ。

うた かい せつ げん
歌の解説

- 当時、水を汲むのは女性の仕事で、大勢の乙女たちが入り乱れて水を汲んでいる情景を詠っています。その井戸のほとりにはかたかごの花が群れ咲いており、賑やかな乙女たちの姿と、かわいらしい花の様子を重ねた幻想的な歌です。

おお とも の やか もち えっ ちゅう
大伴家持と越中

- 家持は、越中国守としての役割を意識して仕事に励み、部下を教え諭す歌や雨乞いの歌を詠んでいます。



- 越中の自然や人々の生活に触れたことは、家持が歌を詠むのに大きな影響を与えました。歌の表現力が豊かになり、歌人として新たな世界を切り開きました。



- 家持によって歌が詠まれ残されたことで、万葉集は天平18年(746)8月7日から天平勝宝3年(751)8月5日までの越中の様子を知る貴重な資料になっています。



おお とも の やか もち お とも ふ たり そ う
大伴家持と乙女2人の像

スタンプポイント

たか おか こ じょう ころ えん さん まる ちゃ や
高岡古城公園(三の丸茶屋)
慶長14年(1609)に築かれた高岡城の城跡です。公園内は、四季それぞれに鮮やかな自然美があり、かたかごや梅、つまま(タブノキ)など万葉集ゆかりの植物をみることができます。
スタンプが押せる時間/9:00~17:00
定休日/なし



としなが おまへがき
利長くん覚書

うた はい けい
歌の背景を
調べてみよう

万葉集は「題詞」と呼ばれる歌のタイトルなどに、歌が詠まれた日時や場所、作者の心情が書かれているよ。歌が詠まれた背景を知ることによって、1,300年近く前の光景をその場にいるかのように感じることができるよ。



い みず がわ お や べ がわ
射水川(小矢部川)

お や べ がわ なが ふね い き よう す
小矢部川を眺めて舟が行き来した様子を
想像してみよう

い みず がわ げん ざい お や べ がわ
射水川は現在の小矢部川です。

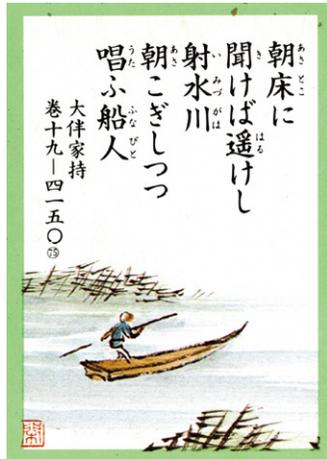
まん よう しゅう じ だい お や べ し つ ざわ なん ぼう お が み が わ し ょ う が わ ご う り ゅ う
万葉集の時代は小矢部市の津沢の南方で雄神川(庄川)と合流して、

こく ふ ふ し き あた と や ま ん そ そ
国府があった伏木の辺りから富山湾に注いでいました。

かわ すいりょう げん ざい おお し どう しゃ じ だい
川の水量は現在よりも多く、自動車がない時代の

じゅうりょう ゆ そう い どう しゅう だん
重要な輸送・移動手段でした。

かこう ふしき こくふ お
河口の伏木に国府が置か
れたのは、交通・物流に
便利だったからだね。



うた かい せつ
歌の解説

- 家持が暮らした国守の館は現在の伏木気象資料館あたりとされ、河口や海岸線は現在より近くて、舟人(舟を漕ぐ人)の歌声が家持の寝床にまで聞こえて来たのでしょう。豊かな水量の大河を舟がさかのぼる情景が浮かび、中国の漢詩を意識した歌となっています。



富田実布撮影

げん だい ご やく
現代語訳

あさ ね どの みみ す
朝の寝床で耳を澄ますとはるか遠くから
きこえてくる。射水川で朝舟を漕ぎながら
うた かな ぶね ひと こえ
歌っている舟人の声が。

こく ふ せい かつ
国府の生活

- 越中国府の国庁(現在の県庁)の中心となる建物は、現在の勝興寺の境内にあったとされています。国府では、税を集めたり、裁判所や警察の役割をしたりするなど、広い分野の仕事が行われていました。

- 国庁で働く役人は、夏至のころは朝5時半(冬至は7時5分ごろ)より前に出勤し、日没(夏至は19時20分ごろ、冬至は17時ごろ)前まで働きました。

そが 外が明るくなってから
の暗くなるまでが働く時間
だったんだね。



- 役人には食事が支給されました。朝夕に2回が基本で、昼食が支給されることもありました。また、休日は、5日働いて1日休む決まりになっていました。



スタンプポイント

たか おか し ふ し き き し ょ う し ょ う かん
高岡市伏木気象資料館

かつての伏木測候所です。明治16年(1883)に藤井能三によって、全国初の私立測候所として設立され、二度の移転を経て、現在地となりました。越中国守館址の碑(裏に「朝床に」の歌)があります。

スタンプが押せる時間 / 9:00~16:30
定休日 / 火曜(祝日の場合は翌平日)
年末年始(12月29日~1月3日)



としなが おほえがき
利長くん覚書

おお とも の や か も ち
大伴家持と
奈良の大仏

てんびょう ねん しょう む てん の う
天平15年(743)、聖武天皇は
災害や病気によって苦しむ人々
を救うため、奈良の東大寺に大仏
を造ることを決めました。そのため
には働く人や食べ物がたくさん必
要で、越中において米などを作
ると、越中の人々も米を
土地を選ぶことも家持の仕事の
一つでした。

この 当時の国家的
事業だったんだ



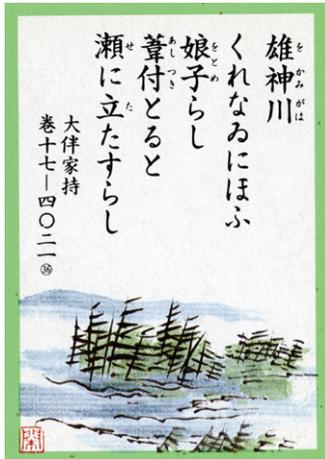
お がみ がわ しょう がわ
雄神川(庄川)・あしつき

まん よう しよくぶつ さが
あしつきなど万葉植物を探してみよう

お がみ がわ げんざい しょうがわ ちゅうじょうりゅう ふる よ な
雄神川は現在の庄川の中上流の古い呼び名です。
ししょうがわ こうずい なが か げんざい と なみへい や かたちづく
庄川はたびたび洪水をおこして流れを変え、現在の砺波平野を形作りました。
あしつき
「葦付」はあしつきのりと呼ばれる食用の川藻です。
むかし しょうがわ えん がんかくち み
昔は庄川沿岸各地で見られましたが、
げんざい なかだち いき じょうりゅう なんとしと がちいき
現在は、中田地域や上流の南砺市利賀地域などに
かぎ
限られています。



あやべがわ しょうがわ
小矢部川と庄川が
分れるのは大正元年
(1912)なのだ。



げん だい こ やく
現代語訳
お がみ がわ いちめん あか て は
雄神川が一面に赤く照り映えている。
おとめ
乙女たちがあしつきを採るために
せ た た っ て い ら しい。
瀬に立っているらしい。

うた かいせつ
歌の解説

- 国守の仕事として、家持が越中国を見回したときに最初に詠んだ歌です。庄川で水につかりながら、あしつきを採る乙女たちの赤い服の裾が映って、川は紅色に染まっている様子が描かれています。絵画のような世界を1首にまとめあげた家持の名歌のひとつです。

な ら じ だい しよく じ
奈良時代の食事

- 当時の庶民の食事は玄米のご飯に汁物、下級役人はそれに魚が添えられる程度でした。一方、貴族の食事は食材もさまざまで、鴨の吸い物や干しタコなど海や山の幸が出されました。



きそく しよくじ
貴族の食事

- 国庁で新年を祝う儀式や神様に豊作を祈る儀式などを行ったあとは、お酒(酒粕を湯に溶かしたもの)と料理が出される宴(パーティー)が行われました。

- 宴は、国守館など貴族の家でも行われ、交流の場となりました。万葉集には宴の席で詠まれた歌が多く残されています。



うたげ りょうり
伏木では宴の料理をつくっていた厨房の食糧が
発見されているよ。

スタンプポイント

たかおか し なかだ
高岡市中田コミュニティセンター
しよ としよかん なかだ ちく ちい
支所や図書館があり、中田地区の地域
かつどう きょてん しせつ なかだ
活動の拠点となる施設です。中田かかし
まつり てんじ
祭のかかしなどが展示してあります。

スタンプが押せる時間/8:30~22:00
定休日/なし



としなが おぼえがき
利長くん覚書

あしつきのり

ちやいろ みどりいろ ま
茶色と緑色が混じった色をした
ゼリー状で袋が集まったような
かたまり
形をしていて、太陽が当たるきれ
いな冷たい川を好むんだ。中田
いきもの里公園では春先
み じ ん び と
見ることができるよ。地元の人
が大切に育てているので採ら
ないでね。



中田地区記念物保存会撮影

まん よう ふう けい
万葉の風景
5

しぶ たに あま はらし かい がん
渋溪(雨晴海岸)

まん よう か ひ めく えっ ちゅう まん よう ふう けい さが
万葉歌碑を巡って越中万葉の風景を探してみよう

しぶ たに げん ざい あま はらし かい がん
渋溪は現在の雨晴海岸にあたります。

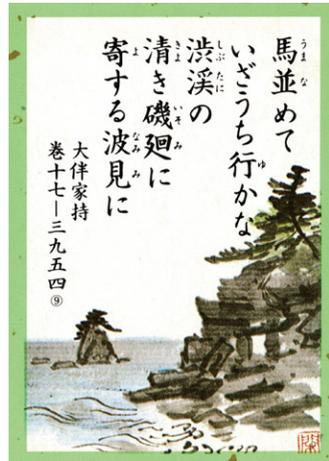
め いわ どく とく かたち いわ なら しろ すな つづ
女岩などの独特の形の岩が並び白い砂が続きます。

うみ こ きゅう たて やま れん ぼう のせ けしき よ ぼ しょ
海越しに3,000m級の立山連峰を望むことができる景色が良い場所で、

とう じ かい がん げん ざい おき
当時の海岸は現在よりも1~2km沖まで
広がっていたといわれます。



しぶ たに つづ すな は まみ
渋溪へ続く砂浜から見た
月夜の景色に感動したよ。



げん ざい さ やく
現代語訳
うま つら で
馬を連ねて、さあ出かけようじゃないか。
しぶ たに きよ なみ み い
渋溪の清らかな磯辺に寄せる波を見るために。

うた かい せつ せつ
歌の解説

- 天平18年(746)、大伴家持が自分の館に部下を招いて開いた越中に来て最初の宴において詠まれました。宴も終わりに近づき、家持は場所を変えて渋溪の磯に寄せる波を見に行こうと提案しています。宴の雰囲気伝わって来る歌です。

え ど じ だい えっ ちゅう まん よう
江戸時代の越中万葉

- かが はん との えっ ちゅう ゆう り ゅく むら やく にん まん よう しゅう
加賀藩のお殿さまは、越中の有力な村役人に万葉集の
うた まくら うた よ めい しょ ちよう さ
歌枕(歌に詠まれた名所)を調査させたので、
えっ ちゅう ゆう り ゅく しゃ あい だ まん よう しゅう かん しん ひろ
越中の有力者の間に万葉集への関心が広がりました。



- この結果、江戸時代後期に勝興寺の住職が歌枕の布勢の
みず うみ ひ み し けしき が か えが はん し
水海(氷見市)の景色を画家に描かせたほか、藩士や
むら やく にん えっ ちゅう まん よう けん きゆう しょ か うた まくら しめ
村役人が越中万葉の研究書を書いたり、歌枕を示す
か ひ た
歌碑を建てたりしました。



しん い ざい こ まん よう か り
市内最古の万葉歌碑

- え ど じ だい ゆう めい はい じん まつ お ぼ しょう
江戸時代の有名な俳人松尾芭蕉や
きん たい か じん よ さ の あき こ まん よう
近代歌人と謝野晶子などが、万葉ゆかりの
ち たか おか おと づ うた よ
地として高岡を訪れ、歌を詠んでいます。



しん い ざい こ
市内には鉄道や
和菓子など様々なものに
万葉ゆかりの名前が
つけられている。

スタンプポイント

みち えき あま はらし
道の駅 雨晴

あま はらし かい がん けしき たの てん ぼう
雨晴海岸からの景色を楽しめる展望
デッキがあるほか、地元産の食材を
盛り込んだランチなどが楽しめます。
も こ
大伴家持の歌碑と松尾芭蕉の句碑
が並んで建てられています。

スタンプが押せる時間 / 9:00~17:00
(季節により19:00まで延長)

定休日 / なし



とし なが おほ え が き
利長くん覚書

みち
おくのほそ道

あり そう づみ あらい そ しぶ たに いわ
「有磯海」は荒磯(渋溪など岩の
かい がん てん と やま わん さ
海岸)から転じて富山湾を指す
うた まくら あま はらし かい がん
歌枕となったんだ。雨晴海岸の
めい わ れい ねい わ まつ お ぼ しょう ひと づ
女岩と義経岩は松尾芭蕉の旅行
き かん づ ち
記「おくのほそ道」に関連する名勝
になっているよ。



わ せ の
分けの香や
分入右香
有磯は海

